

年表 2.躍進期(1952年～1965年)

	協会・塩ビ工業	塩ビ製品・プラスチック・化学工業	海外展開・海外情勢	行政・自治体・法律	政治・経済・社会
1952年	6月 日本ゼオンが米・グッドリッチ懸濁重合法で工業化 11月 鐘淵化学、溶液重合法を工業化 塩ビの輸出が開始される	1月 「農業用樹脂研究会」発足 3月 東亜樹脂工業、塩ビ継手を工業化 8月 積化学工業、塩ビ製セパレータの生産を開始 10月 積水化学工業、硬質塩ビ管を工業化 12月 「農業用樹脂研究会」が「農業用樹脂普及会」に改称			4月 琉球政府発足 学校給食、全国で実施 NHKラジオドラマ「君の名は」 5月 白井義男世界フライ級チャンピオンに 7月 羽田が米軍から返還され、東京国際空港として開業 8月 国際通貨基金に加盟
1953年	<b>塩化ビニール協会</b> 6月 「塩化ビニール協会」が発足(日本化学工業協会館内に事務局) <b>初代会長に中司清鐘淵化学工業社長が就任</b>  乳化重合8社が撤退、懸濁重合11社の方向へ	2月 モンサント化成、DOP生産開始 第3回プラスチック文化展  塩ビレザー製サンダル、ケミカルシューズの試作開始 8月 「合成樹脂工業協会」発足 9月 積水化学工業、尼崎で塩ビテープを工業化		3月 通産省、「合成樹脂育成5ヵ年計画」を決	2月 吉田首相「バカヤロー発言」 4月 山田敬蔵が世界最高記録で、ボストンマラソン優勝 5月 英国登山隊ヒラリーがエベレストに初登頂 7月 伊東絹子がミス・ユニバース3位に入賞し、八頭身ブーム起こる 12月 奄美諸島返還される
1954年	3月 「ビニル工業育成要望書」 5月 「塩化ビニル製品展」を日本橋白木屋で開催 8月 「塩化ビニール白書」を発表 住友化学、ペーストレジンの生産を開始	8月 鐘淵化学、塩ビ・アクリル繊維を工業化 9月 「塩化ビニル管協会」発足		6月 通産省、「石油化学育成基本方針」を決定 12月 東京都水道局、硬質塩ビ管を給水管に採用	3月 ビキニ環礁の米水爆実験で、第5福竜丸が被爆 4月 大阪で第1回日本国際見本市開催 東京で第1回全日本自動車ショー開催 7月 防衛庁、自衛隊発足
1955年	3月 日信化学工業が設立(新日本窒素、信越化学) 4月 東亜合成、高岡で塩ビモノマー100t/Mの生産開始 6月 「塩化ビニル樹脂試験法」でJIS(K6721)制定 レコード用レジンが完全国産化 硬質塩ビ比率30%へ	1月 「カーバイド工業会」発足 6月 「硬質塩化ビニール板協会」発足 9月 モンサント化成工業、DOAを企業化 エンパイヤチューブのブーム		5月 通産省、「合成樹脂5ヵ年計画と経済効果」を発表 6月 通産省、「合成樹脂工業の育成について」を省議決定	8月 東京通信工業(現ソニー)が世界初のトランジスタラジオ発売 10月 左右両派を統一して、日本社会党結党 11月 保守合同し自由民主党結党
1956年	1月 日信化学、懸濁重合400t/Mを工業化(武生) 4月 日信化学、協会に入会 11月 呉羽化成、協会に入会 12月 塩ビ生産、日本のプラスチック中第1位、世界で3位とな	4月 東洋曹達、水銀法電解ソーダの生産開始 三菱油化設立 9月 帝国人絹、塩ビ繊維を工業化 10月 呉羽化成、無可塑塩ビフィルムを工 水道用塩化ビニル管のJISが制定 12月	鐵鋼社、台湾に製造技術を輸出	7月 公正取引委員会、塩化ビニル業界に対して、独占禁止法違反を審決	2月 神武景気 日本住宅公団、初の入居者募集 7月 経済白書の「もはや戦後ではない」が流行語になる 11月 東海道本線的全線電化完成 12月 国連が、日本の加盟を承認
1957年	1月 信越化学、協会に入会 5月 東亜合成、仏・サンゴバンから塊状重合法塩ビ製造技術 塩ビ業界、輸出カルテルを結成。その運営機関として「塩化ビニール輸出振興会」が発足 11月 「躍進塩化ビニル総合展」を大手町産業会館で開催  東亜合成、徳島で塩ビモノマーの生産を開始	6月 「可塑剤工業会」発足  硬質塩ビ板が建材として進出 塩ビタイルの本格的な使用	10月 塩ビ業界、輸出カルテルを結成	9月 通産省、塩ビ業界に操短を勧告(58年3月まで)	1月 南極観測隊が、東オングル島に上陸 8月 東海村原子炉で「原子の火」点火 9月 国産ロケット第1号カッパ-C型の打ち上げ成功 10月 日本が国連の非常任理事国に当選 5,000円札発行 ソ連がスプートニク1号の打ち上げに成 100円硬貨発行 12月
1958年	4月 <b>協会会長に岸野佐吉日本ゼオン社長が就任</b> 6月 「塩化ビニール総合展」を近鉄百貨店で開催 11月 塩ビ業界、不況カルテルを結成(59年3月まで)	1月 モンサント化成工業、DIDPを工業化 4月 三井石油化学、岩国コンビナートの操業を開始 4月 住友化学、大江コンビナートの操業を 6月 「石油化学工業協会」発足 10月 フラフープブーム 12月 「塩ビ継手協会」発足	7月 日本貿易振興会(JETRO)発足 8月 アメリカ、オーストラリア向け塩ビ樹脂輸出でダンピング問題起こる		1月 欧州共同体(EEC)発足 4月 巨人軍・長崎茂雄、デビュー戦で4打席4三振 5月 第3回アジア競技大会、東京で開催 8月 初の即席ラーメン発売 9月 日本初の缶ビール発売 12月 10,000円札発行 東京タワー完成

年表 2.躍進期(1952年～1965年)

協会・塩ビ工業		塩ビ製品・プラスチック・化学工業	海外展開・海外情勢	行政・自治体・法律	政治・経済・社会
1959年	5月 塩ビ業界、輸出カルテルを結成	2月 硬質塩ビ管業界、不況カルテル結成(6月まで) 4月 「全国農業フィルム商業会」発足 5月 三菱油化、四日市コンビナートの操業開始 6月 昭和油化、高密度ポリエチレンを工 10月 苛性ソーダ業界、不況カルテルを結		4月 通産省、不況カルテル満了で塩ビ業界に要望を通達 9月 通産省、塩ビの第1次増設計画を了承(増設枠4,485t/M)	1月 メートル法施行 ソ連が月ロケットの打ち上げに成功 4月 皇太子明仁親王(現天皇)ご成婚 9月 小沢征爾が国際指揮者コンクールで第1位に
1960年	1月 <b>協会会長に吉岡喜一新日本窒素肥料社長が就任</b> 10月 群馬化学、協会に入会	ウインキーブーム起こる 3月 三菱化成、オキソ法オクタノールを工 硬質塩ビ管業界、不況カルテルを結 6月 古河化学、高密度ポリエチレンを工 9月 信越化学、信越ポリマー設立		7月 通産省、塩化ビニル樹脂の第二次増設計画を了承(増設枠5,850t/M)	2月 浩宮徳仁親王(現皇太子)ご誕生 5月 「安保反対」で10万人の国会請願デモ 10月 社会党委員長・浅沼稻次郎刺殺 12月 ベトナム戦争始まる
1961年	3月 東亜合成化学、徳島で塊状重合塩ビ500t/M工業化 8月 富山塩素化学が設立(日産化学、宇部曹達、日本ゼオ	5月 大協和石油化学を協和発酵、大協石油が設立 塩ビスボンジレザー出現 オキソ法DOPの生産開始	3月 信越化学、フィリピンに製造技術を輸出	4月 通産省、「産業構造審議会」を設置 5月 通産省、「化学工業基本問題懇話会」を 8月 通産省、「エネルギー懇談会」を設置	4月 ソ連が世界初の有人衛星船打ち上げに成功 8月 ベルリンに東西の壁が出現 10月 大鵬、柏戸が同時横綱昇進
1962年	1月 塩ビ業界、輸出カルテルを結成(12月まで) 4月 <b>協会会長に西川達明三菱モンサント化成社長が就任</b> 工業技術院補助金で塩ビの加工性に関する共同研究を開始 10月 日信化学工業、塩ビ・酢酸ビニル共重合樹脂の生産を開始	3月 東燃石油化学、川崎コンビナートの操業を開始 5月 呉羽化学、呉羽化成を合併 「硬質塩ビ管協会」と「塩ビ継手協会」が合併、「塩化ビニル管・継手協会」 6月 新日本窒素肥料、チッソ石油化学を日本プラスチック協会、日本プラスチック工業連盟と改称 10月 日立製作所、日立化成工業を設立 11月 電気化学、デンカ石油化学を設立	8月 信越化学、ポルトガルに製造技術を輸出	7月 「石油業法」施行、「石油審議会」が発足される 10月 通産省、塩化ビニル樹脂の第三次増設計画を了承(増設枠1万3,900t/M)	2月 東京都の常住人口1,000万人を突破される 8月 堀江謙一が小型ヨットで太平洋横断に成功 9月 初の国産電子複写機完成 11月 戦後初の赤字国債発行を決定
1963年	4月 鐘淵化学工業、米・UCCから「EDC法塩化ビニルモノマー技術」を導入 11月 協会、設立10周年式典を開催	7月 日本電信電話公社、塩ビ製600電話機を採用 8月 呉羽化学、三晃プラスチックを設立 9月 鐘淵化学、塩ビ樹脂用MBS強化剤の生産開始 11月 「全日本プラスチック成形工業連合会」発足 12月 「プラスチック建材協議会」発足	1月 積水化学、米にセキスイ・プラスチック設立 4月 信越化学、インドに製造技術を輸出	7月 通産省令改正、塩ビ電線管の使用を認可 10月 運輸省令改正、塩化ビニルモノマーの重合禁止剤無添加輸送可能となる	1月 アニメ・テレビ番組「鉄腕アトム」登場 6月 黒部川第4ダム完成 ソ連で初の女性宇宙飛行士誕生 11月 ケネディ大統領、ダラスで暗殺される
1964年	1月 徳山積水工業が設立(積水化学、日信化学が共同出資) 4月 <b>協会会長に森栄三三井化学社長が就任</b> 呉羽油化、混合ガス法塩ビモノマーを工業化(錦) 日本ゼオン、EDC法塩ビモノマーを工業化(高岡) 7月 昭和42年度までの増設計画を通産省に提出 セントラル化学、川崎でわが国初のEDC生産を開始	3月 丸善石油化学、千葉コンビナートの操業開始 セントラル化学、水銀法電解ソーダを工業化 4月 日本ビニル工業会、コンパウンド部会を設置 5月 「ビニルタイル工業会」発足 6月 三菱モンサント化成、土浦で塩ビフィルム設備を完成 8月 化成水島、水島コンビナートの操業を 9月 「塩化ビニル製品工業会」発足 周南石油化学を東洋曹達と徳山曹達 が共同で設立 10月 出光石油化学、徳山コンビナートの操業を開始 11月 「塩ビ雨樋工業会」が発足	9月 三井化学、米・エッソに塩ビ技術を輸出	4月 通産省、塩化ビニル樹脂の第三次増設計画の変更を了承 10月 通産省、塩化ビニル樹脂の第四次増設計画を了承(増設枠2万350t/M)	3月 家電2社が電子式卓上計算機を完成 4月 経済協力開発機構に加盟 海外旅行の自由化 6月 新潟地震発生 9月 名神高速道路開通 10月 東海道新幹線が開通、「ひかり」「こだま」登場
1965年	4月 協会の長期需要予測委員会、「塩化ビニル需要の現状について」をまとめる 三菱モンサント化成、米・モンサントから「オキソ法塩化ビニルモノマー技術」を導入 信越化学、高重合度塩ビの生産を開始	1月 新日本窒素、チッソと改称 5月 日本カーバイド、キャスト法塩ビフィルムの生産を開始 9月 硬質塩ビ管業界、波板業界、不況カルテル結成			10月 朝永振一郎、ノーベル物理学賞、受賞 11月 新南極観測船ふじ、東京港出港 ニューヨーク大停電